

【動労水戸拡大執行委員会議案】

被曝労働拒否・竜田延伸絶対反対の闘いについて

1. 改めて5年間の闘いの経過を見てみよう！

① 2009年～10年

最高裁判決を巡る JR 東日本との死闘戦の展開と勝利。組合員を信頼し団結して闘い抜く以外に勝利がないことを決定的に学んだ。

② 2011年

「3・11大震災と原発事故」人間として生きることの意味と労働組合の根本的見直し。大混乱の中でのストライキ配置。7・17いわき集会&デモ。9月新裁判提訴ストライキ→いわきで最高裁勝利レセプション開催。10月 K544 移送阻止 2 派ストと照沼加盟。11月車両センター祭りでの第3波スト→K544 使用停止に。

③ 2012年

「3・3いわき集会」吉本医師講演会&平支部事務所開設。4月京大から西納書記着任。

④ 「3・11一周年郡山集会」羽部の参加と東労青年部での決起→8月加盟。

⑤ 7月大子支部が、約一ヶ月間に渡る汚染ラジエター洗浄ストライキ貫徹

⑥ 9月検修外注化阻止ストライキ…青年がスト破り拒否の闘いに立ち上がる。10月以降唯一 MTS との団交開始。12月出向差し止め裁判開始。

⑦ 2013年

2月いわき合同ユニオン結成・除染労働者の危険手当支払いを勝ち取る

⑧ 3月「3・11」2周年に、K544の交番検査を3波のストライキで粉碎。

⑨ 7月16日 K544の交検強行に対するストライキで「偽装交検」におい込み、無動力回送で郡工へ。郡工労働者の被曝労働拒否に引き継がれる。

⑩ 9月から10月誘導外注化反対3波ストでMTSを大混乱にたたき込む。

⑪ 2014年

1月～2月 NAZEN いわき結成。「ポケモントレイン」反対スト&2・2診療所報告会へのいわき住民が二桁参加。2・23いわき集会320名&デモの高揚。

⑫ 5月10日竜田延伸試運転反対ストと檜葉仮設住民からの大反響。檜葉町→水戸支社への「不安を煽るな」要請

⑬ 5・30乗務員ストライキへの職場からの大反響。5・31いわき集会520名参加&デモに対する大反響。職場での大きな変化。

2. この時代と社会を規定している過剰資本・過剰生産力による世界大恐慌・長期不況

①資本主義の根本的病。1974～5年恐慌から規制緩和・民営化による新たな市場の形成と合理化による労組破壊を通じた搾取の強化が図られました。これを新自由主義攻撃と呼びます。その日本における突破口が、国鉄分割・民営化でした。国家が先導する不当労働行為で、国鉄の労働組合を解体・変質させようとしてきました。「派遣法」による、非正規労働の全面化はここから始まっています。規制緩和とは、労働者保護規制の撤廃であると同時に安全に関わる規制の緩和でした。要するに、資本の利潤追求を「自由」

にすることで、過剰資本・過剰生産力による利潤の低下を補おうとしたのです。それは、事故を続発させると共に、社会の共同性＝社会そのものの崩壊を生み出してきたのです。

②韓国セウォル号に衝撃的ですが、1999年の山手線保線労働者5名の死亡事故、2005年4月25日の尼崎事故や同年12月の羽越線事故を等々。民営化と規制緩和は、労働組合の団結と労働者の協同性を破壊しながら、ひたすら経費節減に走ることで重大事故を続発させてきました。

③福島第一原発事故も、老朽化した原発を使い続けるために、検査基準を緩和したことが根本原因であり、人災なのだと国会事故調査委員会の崎浜氏が指摘しています。つまり偶然でも、想定外でもなく「第2、第3の原発事故が起きる」ということです。

④安倍内閣は、集団的自衛権行使と共に「残業代ゼロ法」を決めようとしています。問題が深刻なのは「過剰資本・過剰生産力」という状態が、何をやっても儲からない、利潤が上がらないという点にあるのです。つまり、ひたすら労働者を絞り上げ、さらに安全を含む経費を減らし続け、結局最後は戦争で巨大な消費市場を生み出すしかないのです。労働者個人個人がいかに我慢し続けても、終わりが無いどころか戦争への道を許してしまうのです。結局搾取の強化も戦争も、すべて労働者大衆の命を奪っていくこととして結果します。ここに資本主義社会の終わりがあるし、意を決した労働者階級の団結した闘いで断固として終わらせなければならないのです。それが、労働者階級と今生きている人間の歴史的使命なのです。

3. 動労総連合と動労水戸の選択が全国全世界の労働者階級の歴史選択になっている

①動労水戸組合員は、国鉄分割民営化にあたってあらゆる差別や、中傷を受けながら「マイナスはあっても何も得がない」のに団結を維持してきました。動労革マルをはじめ、

すべての組合やその指導部が目先の利益のために仲間を出し抜き、総退却する中で、どうして不利な選択をして、苦しく長い道に耐えたのでしょうか。そして、照沼や羽部は、どうして困難としか思えない選択をしたのでしょうか？果たして他の青年たちには、その様な厳しい選択は無理なのでしょうか？自分たちは、通用しないのか？こうしたことを根本からはっきりさせる時が来ています。

②私たちは直接の利益がなく、比較的マイナスがあっても国家やJR資本の分断に負けず仲間を大切にして、団結して長期に闘い抜いてきた結果、総連合以外のどの組合にも負けない信頼関係を基にして断固として闘争できる労働組合を打ち立ててきたのです。

「K544」も、「ラジエター洗浄」も、「ポケモントレイン」も、「竜田延伸」も、他どの労働組合もストライキで闘えません。原発事故ー原発との闘いをストライキで闘い抜いているという意味で「世界一の労働組合」（福島から避難しているお母さん）と讃えられています。

③私たちの歩んできた約5年間の激しい闘いを振り返りながら、同時にこの世界が資本主義の終わりの時代として急速に危機を深めていることを確認しました。こうしたことは、現実が変えられないどころか、激しく変化していることを示しています。危機に満ちて激動している現実の中で、人間がただ時代に翻弄されるのではなく、むしろ主体的に時代を切り開いていく力が労働者階級の団結と行動があることを示しています。動労水戸が動労千葉と共に歴史的かつ決定的につかんできた核心点がここにあります。

④私たちは、出口の見えない苦く困難な道に耐え、団結が崩されなくなったとき、大きな勝利が切り開かれるという核心をつかみました。そこから、時代を後追いして苦しむ存在から、しっかりと時代を見切り、団結した闘いで積極的に展望を切り開く闘いに猛然と転換したのです。この意識的転換を可能としたのが、最高裁勝利判決を逆手にしたJR東会社による団結破壊攻撃との闘いです。私たちは、この未曾有の試練との闘いを、動労千葉の歴史的闘いを捉え返すことで、強力に再団結することができたのです。JR白

河研修所の2波ストなど前代未聞の闘争を貫徹しぬいて、新たな時代に対応する新たな団結をつくったのです。その中で中村、宇佐美組合員が人生をかけた選択をしてくれました。

⑤そしてさらに「3・11大震災と原発事故」という歴史的な事件が、人間として、労働組合として何が問われているかを根本から問い直し、被曝労働拒否闘争から竜田延伸阻止闘争を検修外注化攻撃と一体で激烈に闘い抜いてきたのです。国鉄分割・民営化に対して、目先の利益でなく仲間と労働者全体の立場を選択し、さらに鉄道労働者として労働者住民の安全を守り抜く「反合理化・運転保安闘争」路線を貫く。その本気さと真剣さが照沼、羽部の人生選択を生み出してきました。そして、国鉄分割民営化で30万人に問われたことが、今や全国全世界の人々の歴史的選択として問われているのです。目先の利益のために、「逃げる」選択もあります。さしあたり多くの人々が、そういう道を選択するかもしれません。しかし、人間は個別の利害を超えて、全ての人々の利益のために立ち上がった人々によってその歴史を築いてきたのです。こういう意味でも「3・11」は、人間として生きることよりも、目先の金に売り渡して来た戦後社会の欺瞞を強烈に暴いたのです。一瞬のうちに財産は元より、掛け替えのない人たちが奪われる。一体人間は、何のために生きているのか。この問いが、新自由主義のもたらした生きられない社会、連続大事故や戦争の激化という中で世界的規模で問われています。動労水戸組合員と動労総連合の選択を、今や全国全世界人々が選択する時代が来ているのです。

⑥この様な時代と人々の支持を背景とする動労総連合・動労水戸の断固たる闘いは、JR会社との間にも圧倒的力関係を形成しています。2万人の鉄道労組ソウル本部のイム・ギリョン本部長は「どうして40人足らずでそんな闘いができるのか？」と驚いていましたが、JR体制の危機から来る追い詰められた攻撃強行の連続は、私たちの存在と闘いでさらに深い矛盾と危機に転化しています。職場でも地域でも支持が高まっています。実際動労総連合が存在する職場は、会社の攻撃の強行で暗黒になったのでしょうか？逆に、今まで会社に対して声を上げられなかった労働者が声を上げ始めています。私たちこそ、

現実を変えているのです。動労連帯高崎には、TTS の労働者が加入し支持を広げています。動労千葉は、過労死との闘いや CTS 労働者との団結をかけた5・2ストライキでやはり組合員を拡大する情勢にあります。動労西日本でも、事故との闘いの中で一人、また一人と決起し JR 西は恐怖の悲鳴を上げています。また、組合の違いを超えて動労水戸の闘いに応え、国労郡山工場支部の労働者も立ち上がっています。動労水戸もまた、全組合員の団結のさらなる飛躍を通して、照沼、羽部に続く「決意ある選択」を生み出していくところに来ているのです。

⑦先にも展開しましたが、資本主義もその最末期である新自由主義も根本から破綻しています。安倍政権を支えているのは JR 体制と、その人格的中軸である JR 東海会長の葛西です。分割民営化が新自由主義の突破口としての国策であったように、東電凋落後の JR は安倍の支柱であり「検修外注化」も「竜田延伸」もすべて国策との闘いなのです。国家的不当労働行為に勝ち抜いた動労水戸は、竜田延伸阻止闘争で国家的被曝強制と棄民攻撃に大打撃を強制しました。

⑧私たちが動労水戸を結成した当初、あらゆる組合破壊攻撃との闘いは「過激派キャンペーン」と共に孤立無援の状態でした。そこから28年、私たちが鉄道の労働組合として労働者と乗客・住民の安全を守る「被曝労働拒否」「検修外注化絶対反対」の闘いは、職場と地域で圧倒的な支持を受けています。断固として、鉄道労働者の組合としての筋を通して闘い抜くことです。ここには、労働者住民を守るために「武器・弾薬・兵士」を運ばないという内容も秘められています。この労働者住民の中に生まれた心からの支持という火を、私たちと共に深く立ち上がる人生上の選択の過程に転化していくことです。全体の獲得を切り開くために、決定的な一人ひとりを大切にしよう！動労水戸とユニオンへの結集が、時代に対応する最も決定的な勝利としてあることを断固としてはっきりさせましょう。

4. 「反合理化・運転保安闘争」路線でさらに強力に打ち立とう！

①労働者分断のための賃金奴隷制度。動労千葉（中野顧問）は、合理化（人員削減と協同性破壊）を賃金とバーターしてきた既成労働運動指導部を根本から乗り越え「反合理化・運転保安闘争」路線を何よりも闘いの中で確立してきました。60年代以降、三池炭鉱をはじめとする炭鉱事故や国鉄での重大事故続発に対して「合理化は事故を必然化させる」、労働組合が団結して合理化と闘うことで安全が死守されることをはっきりさせました。また、賃金や労働条件の改善は、こうした団結した闘争の力関係において決まるのです。

②労働者は、目先の直接的利害を越えて階級的使命において「崇高に」立ち上がったとき最も強力な力関係を形成できるということでもあります。「検修外注化絶対反対」も「竜田延伸粉碎」も鉄道労働者としての責任＝階級的任務において命と安全を守る闘いです。だからこそ、どんな人にも非難できない正当な闘いなのです。ここをめぐって少数であれ、断固としてストライキで立ち上がっていることが、労働者住民の感動を呼び、奮い立たせているのです。

③「竜田延伸」は、双葉、大熊町への中間処理施設建設と檜葉町民（福島全体）の切り捨て＝被曝隠しと強要のための決定的攻撃です。かつて天皇への批判を「国賊」としてタブーにして、徹底した暴力的治安弾圧を背景に日本全体に声を上げられない重圧と相互監視体制がつくられました。現在の福島では、放射能被害を「風評」として反対の声を上げるどころか不安を口にすることも福島や日本の敵だとされ、凄まじい重圧がかけられています。また、住民相互、避難者相互の間にも、金による分断支配と相互対立が生み出されています。そうでなくても絶望的な避難生活は、被害者間の相互対立が煽られることで一層酷い状態になっています。

④私たちは、国鉄分割民営化を経験し、団結して勝利し抜いてきました。国鉄の巨額赤

字も国家政策が生み出したものなのに、国鉄労働者に責任が転嫁され「三人に一人は生き残れない」と猛烈な分断攻撃がしかけられました。その中で我先にと逃げた労働組合幹部をはじめ、手のひらを返した様に会社に忠誠を誓い仲間を陥れていく者など、人間として見たくない醜い姿も多く見てきました。この様な自体に失望し自殺を選んだ労働者も眼前に見てきました。しかし同時に、こうした醜い選択の中で動労水戸組合員を始め、リスク覚悟で断固として立ち向かう選択をした労働者も多数存在したのです。その存在を、屈服の道に陥れてきたのが社会党や共産党をはじめとする全ての体制内左翼でした。今や、こうした政治勢力への幻想も無くなり、私たちへの悪宣伝が通用しなくなっています。これまで明らかにしてきましたが、30年にわたる不屈の団結と闘いに職場内外の労働者、地域住民の信頼と結集が始まっています。時代は、さらに大きく動きます。国鉄分割・民営化による労働組合破壊はブルジョア国家との闘いでした。私たちは、団結して勝ち抜いてきただけでなく、大半の組合員が鉄道の仕事から排除されながら、鉄道労働者とその組合であることの誇りを守り続けて来たのです。8月9日長崎に原爆が投下されたその日に、負傷者救出のために脱線避ける「推進運転」で列車を走らせたのが国鉄労働者です。人を死に追いやる政策や攻撃との徹底対決こそ、鉄道の労働組合の使命であり、真の伝統なのです！私たちの団結で、国鉄労働運動を地の底から甦らせようではありませんか！人として生きる喜びと、証がここに 있습니다。

(以上)